

招待・特別講演

講演者のプロフィール

井上 逸兵 (いのうえ いっぺい)

【略歴】

1961年生まれ、石川県金沢市出身。慶應義塾大学法学部、文学部卒、同大文学研究科修士課程修了。文学博士（慶應義塾大学）。専門は社会言語学、英語学。富山大学教養部、人文学部、信州大学人文学部、慶應義塾大学法学部を経て、2008年から慶應義塾大学文学部教授（現職）。現在そのほかに、慶應義塾中等部部長（校長）、NPO 法人地球ことば村・世界言語博物館理事長など。

（そのほかの活動として本日の話に関連するもの）

- ・InterFM「バラカンモーニング（MC: Peter Barakan 氏）」Talking about Languageのコーナー担当（2010年～2014年（途中2度中断））
- ・NHK Eテレ「おもてなしの基礎英語（MC: ハリー杉山氏）」講師（2018年4月～2020年3月）
- ・(株) シティーデジタル顧問
- ・(株) エス・エス・ケイ・コミュニケーションズ顧問

【主要業績】

（2010年以降、本日の話に関連するもの）

- 『もっともシンプルな英語ライティング講義』（慶應義塾大学出版会、2022年）
- 『英語の思考法-話すための文法・文化レッスン』（ちくま新書（筑摩書房）、2021年）
- 『おもてなしの基礎英語』シリーズ（NHK出版、2019年、2020年）
- 『社会言語学』（編著、朝倉書店、2017年）
- 『グローバル・コミュニケーションのための英語学概論』（慶應義塾大学出版会、2015年）
- 『バカに見えるビジネス語』（青春新書インテリジェンス（青春出版社）、2013年）
- 『サバイバルイングリッシュ』（幻冬舎、2011年）

私のウェルフェア・リングイスティクス

井上 逸兵（慶應義塾大学）

研究者、教育者としてのこれまでの私の試みと、それに連なり土台となる浅慮ししことどもをお話しさせていただければと思います。雑談風になってしまうかと思いますが、お暇をもてあましていらっしゃるようでしたらよろしければお付き合いください。

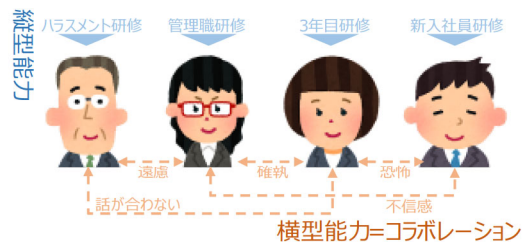
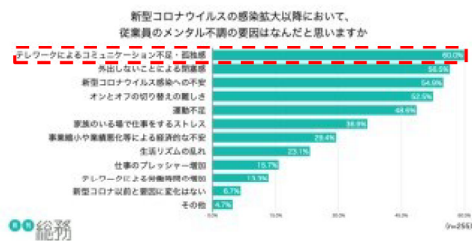
1. 誰のための「ウェルフェア」か
2. 大学生の「ウェルフェア」のために
3. 働く人たちの「ウェルフェア」のために
4. 言語学、社会言語科学に関わる人たちの「ウェルフェア」のために

減ってしまった社内コミュニケーション

コロナ以降に会話機会が大幅に減り、**共同作業の横型能力**に着目

リモートワークで減る「コミュニケーション」

個人の縦型開発の限界で注目される「横型能力」



「コラボレーションとは？：異なる立場の人による共同作業およびその成果物」を指す言葉で、組み合わせの意外性や付加価値の創造等の意味を持ちます

<https://prtimes.jp/main/html/ld/p/000000004.000060066.html>

City Digital Inc., All Rights Reserved

©City Digital

飲み会はもう古い？

社員・経営層ともに、飲み会に代わるソリューションを求めている

「不要が60%以上」の衝撃

必要だと思う一方で「出来ればやりたくない」

順位		全体
1	気を遣うから	36.5
2	仕事の進捗と関係ないから	29.4
3	お酒の飲みすぎで体調が悪いから	22.2
4	所要時間が長いから	20.8
5	お金の無駄遣いが多いから	19.9
6	職場とコミュニケーションが十分取れているから	15.8
7	上場が苦手だから	5.8
8	同僚が苦手だから	4.0
9	経営者ではないから	3.9
10	飲み会が苦手だから	2.5

飲みケーションが「不要」と答えた理由 (%)

日本生命2021調べ

- “今更だけど、せつなく社会全体で無駄な文化を見直すきっかけができたんだからプラスにとらえてしっかり見直さないと。個人的にはセクハラよりも重要なパワハラ案件だと思う。マイナスの要素が大き過ぎる
- “飲みケーションなんてリーダーズ残業にしか思えない。上司や同僚が飲み会大好きで毎週末終電まで宴会やって付き合い悪いと職場で評価まで低くされてあんなことに戻らないこと祈る



コロナ後に気の置けない雑談や顔を合わせる交流の重要性を再認識して、飲み会は必要だと思う一方、レピュテーションリスクで出来ればやりたくないですね

アルハラ、パワハラ、セクハラ、PC無くした、喧嘩した、トイレ壊したとか、問題って全部飲み会の場で起こるじゃないですか

デメリットが明らかだから飲み会自体廃止したいんだけど、社内コミュニケーションの重要性は確かにあって、他のソリューションが無いから仕方なく飲み会になってしまう



経営者

<https://www.nissay.co.jp/news/2021/pdf/20211117.pdf>

つまらない飲み会、心当たりがありませんか？

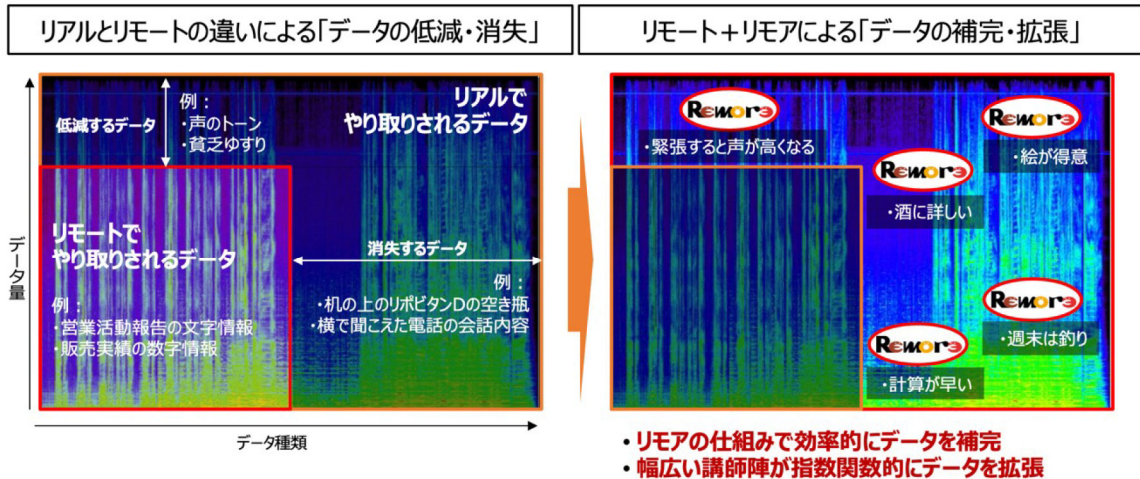
こんな飲みケーションでは、コラボレーションは活性化しません

要素	ありがちな「間違った飲みケーション」	
	部下	上司
1:体験共有	<ul style="list-style-type: none"> 上司のグラスが空になったらお酒をつぐよう指示され、落ち着いて食べられなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 年で胃腸が弱ってきたのに、若い世代の要望で焼肉になり全然食べられなかった
2:自己開示	<ul style="list-style-type: none"> 新しい部署の歓迎会なのに、人数が多すぎて自己紹介の時間が無かった 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和の歌謡曲が流れ懐かしい気分になったが、誰も気にして無いのでスルーした
3:相互承認、共通点発見	<ul style="list-style-type: none"> 先輩の苦労話や自慢話ばかりされたが、世代の違いで全く共感しなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代で流行っているアニメの話題で盛り上がったが、一つも分からなかった
4:体験への個人的な満足	<ul style="list-style-type: none"> 宴会の料理が全く口に合わず、時間を無駄にした気分になった 	<ul style="list-style-type: none"> 結構な額の参加費用だったのに、ピンゴ大会の景品がポケットティッシュだった

©City Digital

ねらいと期待される効果

リモートで消失・低減するデータを人工的に補い、共同作業を円滑に



City Digital Inc., All Rights Reserved

グーグルのチーム分析調査

グーグルもコミュニケーションとコラボレーションの関連性を重要視



- ・米グーグル(共同作業による)生産性の調査で、何故チームによってコラボレーションのレベルに違いが出るのかを分析
- ・レベルの高いチームは共通して、他者への心遣いや共感、理解力を醸成するなどのコミュニケーション要素が、コラボレーションのレベルを高めていることが明らかになった

参照：The New York Times

City Digital Inc., All Rights Reserved

©City Digital